

小学校
校内研修

ICT活用・普及のための校内研修

巨理町立巨理小学校 清野 秀和

1. 研修の概要

研修名 フラッシュ型教材を活用した授業づくり研修会

研修の目標

- (1) フラッシュ型教材等を活用した授業のビデオを見たり模擬授業を子ども役で体験したりすることで、コンピュータを活用した教材にはさまざまな種類があることを知り、教材の活用方法のイメージをもつ。
- (2) フラッシュ型教材等を活用する際の指示や言わせ方、活用のコツを整理し、日常的な活用につなげる。

準備物 研修用スライド、研修進行用資料、PC（進行用・研修者用）、プロジェクタ、PC用スピーカー

研修の展開

時間	段階	活動の内容
2分	研修のねらいと進め方の確認	・研修のねらいと進め方を把握する。
5分	[導入] 知識・技能定着のためのICT活用	・ICT活用が授業改善や学力向上にどんな効果があるのか、その概要を理解する。
5分	[体験] 子ども役で体験	・フラッシュ型教材を子ども役で体験し、グループで感想を共有することで教材活用のイメージをもつ。
15分	[研修1] フラッシュ型教材の活用場面の検討	・フラッシュ型教材の分類を知り、どのような指導場面で活用できそうかグループごとに検討する。
		・2パターンの活用例（ビデオ）を比較しながら話し合い授業場面ではどのような活用が望ましいか検討する
15分	[研修2] フラッシュ型教材・活用のコツの整理	・教師の指示や説明、言わせ方、活用のコツ、教材例についてまとめる。
15分	[研修3] フラッシュ型教材のダウンロード・閲覧の体験	・フラッシュ型教材紹介サイトにアクセスする。 → http://eteachers.jp/ ・ダウンロードした教材を各グループで紹介し合う。 ・関連教材として「観光立国検定サイト(宮城版)」を知る。 → http://www.hirama.net/kentei/tourism/miyagi/
3分	まとめ	・研修ねらいを確認し、本研修をまとめる。 ・フラッシュ型教材等を活用した授業実践を促す。
研修後	事後アンケート	・研修を振り返り、アンケートに答える。

2. 研修のポイント

・研修の準備

- ・ 進行担当者は、台本を用意することで、テンポよく研修を進めることができた。
- ・ できるだけ活用場面が分かりやすい教材を準備したので、初めて体験する人たちも、抵抗なく取り組むことができた。
- ・ 研修後にリーフレットを配り、研修内容を振り返ることができるようにした。

・研修の進め方

- ・ 初めに研修の全体の流れを示すことで、見通しをもって研修に参加することができた。
- ・ 全職員31名の研修であったので、低・中・高学年・特支の4つに分かれて行った。
- ・ 学年部ごとにグループを編成することで、どの教材が、どんな場面で活用できるかという話し合いに深まりがみられた。

・フラッシュ型教材の紹介

- ・ 研修の最後に、「eTeachers」のホームページ（※）にアクセスし、一人一人がフラッシュ型教材を検索し、ダウンロードすることができた。
- ・ ダウンロードした教材をお互いに見合うことで、授業での活用法について理解を深めることができた。

※ <http://eteachers.jp/>：フラッシュ型教材の他、研修パッケージやリーフレットを無償提供している。メールにて、研修用IDの発行を申請可能。



3. 受講者の声

- ・ 教材のバリエーションがあり、視覚的にも優れているので、利用していきたい。
- ・ 授業の導入やまとめ、復習などに短時間で取り組むことができる。
- ・ 特別支援教育でも、内容によって効果的に活用できると感じた。
- ・ テンポがよく楽しく学習できるが、理解が十分でない児童へは、配慮が必要であると感じた。
- ・ プロジェクターやPCが各教室に配置されるなど、機器の整備が必要であると思った。

※ 事後のアンケートの結果の抜粋
(回答数31名)

研修内容は満足できるものであったか

